

白門みえ

大正時代の母校

中央大学 三重支部

http://www.hakumon-mie.jp

支部長挨拶

昭和三六年度法卒

支部長 小川 益司

母校中央大学は明治18年に英吉利法律学校として創設されました。学員会三重支部が設立されたのはその64年後の昭和24年(1949年)です。この設立に当時学生であった田村憲司(前支部長)さんは参加されていて、「参加された人数は6名程であった」と言われていました。それが、今や200名を超える三重支部に発展しています。

昨年一月一日「創立125周年記念式典」が多摩校舎で挙行されました。大学の名称の由来であるミドルテンプレルの校長、英国大使、国会議員、支部・団体代表、高額寄付者等全国から1600人が参加され、荘厳さのなかにも盛大に開催され、私も初めて多摩校舎に行きました。その式典で「中央大学源流、記憶そして未来へ」と題したバーチャルリアルティの寸劇が上演され大変好評でした。その式典を一回だけで終わらせるのは、もったないとして全国七ブロックで式典のダイジェスト版を上映することになり、中部ブロックでも1月22日名古屋で開催され、愛知、岐阜、長野、静岡県から250名の学員が出席されました。三重支部からも阪、森顧問をはじめ29名が出席して、他県の学員と歓談してきました。この125周年記念募金に当たっては厳しい経済情勢のなか三重支部の学員から1,460,000

円のご寄付をいただき、誠にありがとうございました。

三月一日の東日本大震災で多くの学員、在学生が被災されたその経済支援をしなければならぬので、今年度は大学からの「学術講演会」も「ホームカミングデー」も中止になりました。

伊勢路を舞台にした第四三回全日本大学駅伝大会は一月六日(日曜日)実施されます。昨年は最終区間で3校に抜かれて、8位になりシード校にはなれなかったが、関東地区の予選会4位にはいり本戦に出場します。今年も優勝への期待は望み薄ですが、学員の応援をお願いします。

62年もの歴史のある三重支部を、今後とも大学・学員と連携を密にして、青春の一時期を榮譽ある中央大学で学び、価値観を共有したという絆を強めて交流を活性化していきます。

北勢支部長 就任に際して

昭和三三年度法卒

北勢支部長 岡本 潤治

昨年、小川三重支部長より「北勢地区の中央大学卒業生の結束が非常に悪いので、何とかしてくれませんか。」との要望がありました。私自身の仕事が多忙であり、且つ高齢でもあるので躊躇したのですが、小川さんの強いご要請でもありましたので、支部長を引き受けさせていただきました。多忙のためいろいろ迷惑をおかけすることと思っておりますので、皆様のご

協力を切にお願い申し上げます。

中央大学入学後は、一応司法試験を目指しましたが、二年で挫折して就職に方向転換しました。卒業時の昭和三年は大変な就職難時代で、両親がいなかった自分には条件が悪く、卒業間近というのに前途に見通しが立たず、暗い毎日が続いていました。就職難と生活苦に心を痛めていたので、残念ながら中央大学時代のよき思い出はあまりありません。やっと名古屋の某銀行に一年弱就職しましたが、自分で「商売」をしようと思いましたが、二二歳で酒類関係の仕事に従事しました。

その後、家電販売にも進出しましたが、時代の変化もあって昭和五年に今の不動産業「名酒コンサルタント株式会社」を設立し、現在に至っております。「信用と堅実経営」をモットーに、南勢支店を含めて社員数約五〇名で、三重県内のエリアで仕事をさせていただいております。

私は大学時代の大半を幡随院(武蔵小金井市)というお寺の寮で、他の大学の学生と一緒に毎朝読経させられながら過ごしました。非常に辛い毎朝でしたが、何しろ二食付きで月2,250円でしたから貧乏の私には大変助かり、今となつては懐かしい思い出です。平成一四年日経新聞の交遊抄の欄に、「幡随院の思い出」という記事が載り、期せずして一五名の方が会合して思い出はなしにふけり感無量でした。

最後に県下各地でご活躍中の中央大学学員会三重支部の皆様のご指導を仰ぎながら、母校と学友の絆を強めるため尽力したいと思っておりますのでよろしくお祈り致します。

スイス旅行に参加して

昭和三八年商卒

北村 浩康

小生、この寄稿を支部長から指

名されました。現在の仕事は、地味なものです。一応は、30年を超え、年齢も70歳を超え、そろそろ人生の終章に入る頃になりました。

卒業写真集(63)を紐解いて見てもみすと、安部騒動による学生運動の盛んな時代であり、写真集には色濃く反映されています。デモのとき樺美智子様が亡くなられたことも記憶しています。

さて、私の仕事は、社会保険・経営労務に関する仕事ですが、故森教授(保険論)が、三重県で講師をされているとき、受講し、中央大学で勉強しないか、といわれ、末席を汚すことになりました。その頃は、大学は司法試験合格一番、公認会計士合格一番、箱根駅伝は常勝の時代であった。

前置きは長くなりましたが、旅行の話をして貰います。お盆休みを利用して仕事の調整をし、30数年ぶりの海外旅行を致しました。「スイス2大鉄道と4大名峰8日間」に行つてまいりました。少し案内人さんの話をさせて頂きました。スイスは鉄道王国である。日本の山岳鉄道はスイスから学んでいる。

マッターホルン、モンブランその他の山々を征服(初登頂)したことにより、世界の登山家が登頂を目指し、その麓の村にはぎやかになり、観光客も増加した。ホテルの経営者は、昔は、牛飼いであった。

勤務について、バスの運転手さん、ホテルの従業員さん等超過勤務に対することで、超過勤務を労働者がすると、労働者が罰金を支払うことになるそうです。仕事上、経営労務で割増賃金、サービスマン業のことに關して、ワークライフバランス、ワークシェアリングを考えると、考えさせられます。

中央大学との縁

昭和四二年度法卒

田中 正孝

会社の勤務も終え、今は非常勤の三重県監査役をさせて頂いていただいております。各方面の皆様へ感謝しながら、いろいろ過去を振り返るいい機会にと苦手な作文ですが、原稿の依頼をうけることにしました。

中央大学は昭和38年、まだ校舎の中を「核マル」「中核」とかヘルメットをかぶった学生が多数見られる頃でした。当時私は新宿区の戸塚に下宿してましたので、都電で早稲田から大曲、飯田橋、九段下を経由して、小川町まで約40分を要しました。そのため学校の出席はいたって悪く、今でも出席が足りないとか、教科書がないとか、単位がとれないとかの夢を見ます。マジヤンはしなかったのて下宿で寝ているか、本を読んでいるのが日課でした。

余談ですが、名曲「神田川」の舞台のお風呂は私が通っていた「安平衡湯」という路地の奥の銭湯です。ここではドイフターズの高木ブー(中大卒)さんも来てみえました。

入学して間もなく、神保町の「いろは寿司」で三重県人会の会合があり、出席しました。毎年夏には津市内で学生と学員との合同懇親会もあり、今もお元氣な先輩の方々とお会いしたのが思い出されます。あれから50年近く経っているのです。

百五銀行入行は昭和42年、当時は大学の先輩は8名だったと思えます。その頃は中大は就職の指定校にもなっていないので、今では70名を超える同窓の行員がいるのが嬉しい限りです。数少ない先輩や、取引先の先輩・後輩、他の地方銀行の同窓の方々に本当に助けをいただきました。中央大学の校風の暖かさを感じていま

す。平成20年から三重県監査委員をしていますが、県庁にも中大の卒業生が多く、いろいろな局面でお世話になっています。

百五銀行、県庁と三重県内では、同窓の多い職場ですから、本当に恵まれた環境で仕事が出来たと思います。平成22年から津市老人クラブ連合会卓球部に入会し、体力の衰えをカバーしていますが、この会は大学の先輩故速水正氏が21年前に創設されたもので、毎年一月には記念の速水杯卓球大会が行われています。

昨年まで、ほぼ一〇年連続で箱根駅伝を5区の箱根湯本駅前で応援してまいりました。今年は都合が悪く断念したのです。来年からまた応援に行きます。

人生は、自分で道を開拓するものですが、一人では無理です。私は大学に關係する皆様のお蔭だと痛感しています。これからもいろいろなご支援をお願い致しますと共に、中央大学、学員会三重支部のご発展と皆様のご健康をお祈り致します。

新しい職場へ

昭和四九年度法卒

大森 秀俊

確かお盆過ぎでしたか、小川支部長から職場に電話があり、白門みえに何でもよいから一筆書いてよこすよう御依頼がありました。その時は二つ返事でお引き受けをしたものの、生来の筆不精であることを忘れておりました。電話を切つてから、「しまった」と後悔をいたしました。

何を書こうか、あれこれ考えましたがとてもまとまりませんので、これからの文章は脈絡なく思いつくまま書きなぐったものであることを御承知で、お読みいただきましたと思います。

私は昭和四五年、法学部に辛うじて入学し、在学中は友人に恵まれたこともあり(代辺をお願ひする人間が何人かいたという意味です)、無事四年で卒業することができました。

学生時代は神保町付近を徘徊し、今もある喫茶店・さぼるや、パチンコ・人生劇場(これは今はどうなっているかわかりません)へは、友人とよく行った思い出があります。どちらもなかなか含蓄のある名前であることに当時は気づきませんでした。

名譽のために書きませんが決して遊んでいたばかりではなく、英語と第二外国語のドイツ語の成績が些か良かった(本当か?と思われ方もおられると思いますが、これが本当でないと、この駄文がここで終わってしまいます。それではいくら何でも短すぎますので、もう少し続けさせていたたく意味でも本当だと、ここではご理解下さい)ことと、ゼミでとつた経塚作太郎先生の国際関係論が面白かったものですから、漠然と、卒業後はマスコミの外報部にも行けたらと考え、ある大手新聞社を受けました。

閑話休題。経塚先生は大変温かいお人柄で、長野県の野尻湖の夏合宿や、論文作成など親身になつてご指導いただき、大変感謝しています。また、ゼミの同期には、朝鮮問題の専門家としてよくテレビに出てくる静岡県立大学の伊豆見元教授がいます。

話を続けます。在学中は、特にマスコミ向けの勉強をしたわけではなく見事に不合格となり、結局三重県庁に入庁いたしました。

県庁では、主に地方財政、産業振興、議会改革等の仕事に携わり、この三月末で定年を一年早く退職させて頂いたいただきました。その間、諸先輩を始め白門の皆さまには終始ご指導、ご鞭撻、またお引き立てをいただいたことは生涯忘れられません。七月一日からは、鈴鹿市副市長として末松市長の下で働かせていた

だいています。松下幸之助は「素直な心」を持つことの大切さを語っています。素直な心で物事に当たれば判断に大きな過ちがないとのこと。私もこの精神で重責を務めたいと考えています。

最後に、鈴鹿市議会には後藤光雄議員、南条雄士議員の二名の白門会員がおります。議会と執行部とは立場は異なりますが、市政発展のためお互い緊張感を持ちつつも温かくお付き合いさせていただければと願っております。

二十年ぶりの訪問

平成二年法卒 県庁支部 岸田 明

一昨年の秋、卒業以来およそ二十年ぶりに多摩キャンパスを訪ねた。そのきっかけは、九月に参加した三重白門会総会で、隣合わせた先輩と話すなか、お互い大学の四年間を同じ町に住んでいたことが分かり、その町と同じラーメン屋が行きつけで、同じ理髪店で散髪していたことなど、当時の共通の話題で盛り上がったことだった。

しかも先輩は、卒業後も何度か大学やその町を訪ねているとのこと。いつかそのうちにと思っていた私を駆り立てたのだ。休日千円の高速道路を利用し、八王子に宿泊のあと、まずは、四年間を過ごしたアパートの大家さんを訪ねた。アパートもそのままであったし、二十年ぶりに会う大家さんも全くお元気なままで、昔話や近況報告に花が咲いた。近所のラーメン屋はなくなっていたが、理髪店はそのままであった。そして当時と同じ道順で大学へ。一ヶ月ごと変わったよ。と同世代の同窓生らから聞いていたとおり、『炎の塔(学生研究塔)』、『Cスクエア』など、近年の変化や発展を確認することができた。しかし、それより私が感じたのは多くの施設とともに、大学を包む

空気感などにも当時と変わらないところが多いことであり、大家さんとの再会とあわせ、懐かしさに満足して帰路に着いた。きつかけを与えてくれた三重白門会総会と先輩に感謝。

大学時代に得たもの

平成二年商卒 百五支部 駒田 直哉

大学を卒業し二年が経ちますが、広大なキャンパスの中を歩いていた事を昨日の事のように感じます。私が大学時代に得たもの、それは「かけがえない仲間」に尽きます。

在学中には二つのことに時間の大半を費やしてきました。一つはゼミです。マーケティング専攻のゼミに所属していたのですが、大学四年時に他大学が一堂に集まり研究発表を行うという、正に集大成というイベントがありました。直前ともなると毎日のようにゼミメンバーの下宿先に集まり資料作成や発表の予行演習を行うなど、寝る間も惜しんで没頭してしましました。今考えても汗が出るような思い出です。

時には恋愛相談したりと頻繁に連絡を取り合っています。共に苦労を経験した仲間と話す時間は、当時より成長したと感じる部分もある反面、まだまだ甘いなあと反省する部分もあるなど、自分を見つめ直すかけがえないものになっています。

現在百五銀行に勤務し、昨年、一昨年と三重支部総会に出席させて頂きました。中央大学出身者としての深い繋がりを、そして出身者である自分もその一員であり仲間であるという喜びを感じました。自分は中央大学出身者であるという誇りと自覚を持ち、これからも自己研鑽に励んでいこうと思

宮武喜久恵 絵画展

四日市在住の宮武喜久恵(昭和四八年法卒)さんの個展が、この十月二十五日(火)〜同月三十日(日)東京銀座の「藤屋画廊」で開催されます。

宮武さんは、1990年東西ドイッの統一を記念して壁に壁画を描く企画に日本人として唯一人参加され、さらに20周年を記念して、昨年招待を受けその修復のためベルリンを訪問した際、駐ドイツ日本大使から展覧会を依頼され、ベルリン日独センターで新たに描いた「ベルリンに咲く花」等20作品を展示し大変好評を得た。

これまでも名古屋、倉敷等各地で個展を開催してきているが、東京ではじめてです。学員の知人にしらせてあげてください。(絵画展の案内状を同封しています)

第四三回全日本大学駅伝大会

今や伊勢路の秋の風物詩となつている全日本大学駅伝大会が一月六日あります。熱田神宮から伊勢神宮までの八区間一〇七kmを競うもので、昨年は八位で六位まで

のシード校には入れなかったが、関東地区の予選会で青学、帝京、城西に続いて四位に入り、本戦出場が決定。こんなことでは今年も優勝は期待出来ないでしょうが、父母連絡会三重支部や近隣の父母連絡会の熱烈な応援が年々増えてきており、選手がゴールした後、岩戸家で選手らを囲んでの慰労会は学員も入り切れません。

叙 勲

東日本大震災で延期されていた春の叙勲で学員松岡美知男(元県出納長、七〇歳)さんが地方自治功労者として瑞宝中綬章を授与されました。お祝い申し上げます。

人 事 異 動

父母連絡会三重支部長 伊藤英基
津商工会議所副会頭 山松健一
四日市税務署副署長 村瀬滋
三重県健康福祉部長 山口和夫
三重県農水商工部理事 細野浩
三重県警察本部交通部長 森岡豊
百五銀行理事審査部長 後藤悦夫
百五銀行システム統括部長 桐井秀和
百五銀行本店営業部長 木村幸正
百五銀行伊勢支店長 内藤誠
赤塚植物園代表取締役社長 赤塚耕一
鈴鹿市副市長 大森秀俊

中央大学学員会への入会 の す す め

三重支部に加えて、長い間休眠していた北勢支部も再出発です。加入していない学員には近くの支部への参加を呼びかけて下さい。学員同士のネットワークを広げ、交流の機会を増やしましょう。

節電と酷暑の夏も過ぎ、爽やかな秋風が頬に触れ、心地よく感じられるこの頃ですが、学員皆さんの一層のご健勝をお祈り申し上げます。

編 集 後 記
今こそ「ニッポンを守る」
被災中央大学生に支援を

今年三月一日(金)午後二時四六分、東北・三陸沖を震源とする国内観測史上最大のマグニチュード9.0という巨大地震が発生した。この東日本大震災は津波、福島第一原発事故と重なり、日本にとつてまさに戦後最大の災害となった。その被害総額は、いろいろな調査の試算でも15〜25兆円で、1995年の阪神・淡路大震災の被害総額(約10兆円)を大きく上回る。これら経済損失や放射能汚染による長期間にわたる住民の塗炭の苦しみは想像に絶する。

死者15,757人、行方不明4,313人(9月3日現在)のうち65歳以上の高齢者は全体の54.8%を占めている。高齢化が進む地域で災害弱者が地震や津波にのまれた実態が浮き彫りになっている。

日本は今国家的な非常事態である。「くじけない、負けない、勇気と強い心」を持ちたい。そして大事なことは、被災地で見られるような、人への思いやりと人を信じる心を、日本人みんなが共有することだろう。

日本が一日も早く、明るいものになることを信じ、日本を、社会を、職場を、家族を守るために自分でできることに努めたいものです。

東北・北関東から中央大学で学ぶ400名を超える学生が被災された、或いは学員が犠牲となられたことは学員の一人として悲しみに堪えません。

学員会三重支部の皆さんには、厳しい社会経済状況の中でありますが、少しでも被災学生の支援に温かい手をさしのべていただきますようお願い致します。

小川 益司
三重支部長 (文責 小川)